

猿が辻

御所の外壁の北東の角の軒の下には一匹の木の猿が彫られています。切り込みを入れたようになっている築地塀の角で、猿は円錐形の高い烏帽子を被り、ジグザグの形をした紙が付いた御幣を持っています。この猿は日枝山王神社からの使者であり、鬼門とされる北東の方角から来る不幸を封じ込める役割を担っています。しかし、夜な夜な抜け出してはいたずらをして人々を困らせたため、金網に閉じ込められています。

江戸時代も終わり近くの 1863 年 5 月にこの近くで貴族の姉小路公知が暗殺されました。この事件は「猿が辻の変」と呼ばれています。公知は攘夷派の急先鋒であり、開国派と対立していたのです。